

活躍する先輩たち

いまの仕事、静大で過ごした日々、後輩たちへのメッセージなどをお聞きました。



大学での挑戦の日々は いまの私の宝物に

しらとり いくみ
白鳥 生実 さん

総合科学技術研究科理学専攻（2020年修了）
株式会社駿河生産プラットフォーム 勤務

1995年生まれ、静岡雙葉高等学校卒。
趣味は、Jazz鑑賞と演奏。好きな言葉は「一所懸命」。

●「昨日の自分を越えた！」が嬉しい

岡林利明研究室では物理化学の研究をしていました。機械を触ることが多く、薬品などはほとんど扱わなかったため、就職活動では化学系に拘らず、面白そうな会社をなんでも受けてみようと考えていました。今の仕事を選んだのは、自分のやってきた分野とは一番かけ離れた専門領域で挑戦してみたいと考えたからです。今はまだ、勉強しながら実務を覚えている最中ですが、「昨日先輩に教えてもらった技術を今日は上手く利用できた」など、昨日の自分を越えたと感じる瞬間が今の一番の喜びです。できなかったことができるようになる。それを第1の目標に挑戦の日々が続いています。



●研究室で学んだ姿勢、仕事に活かす

岡林研究室では多くの学びがありました。中でも、現在の仕事に活かしているのが「目的を持って行動する」ことです。たくさんのタスクを抱えたときに必要とされるのは効率性で、現在行っている作業でどんな利益を得ようとしているのかを意識することが求められます。それは、研究室で実

験をする際に身につけた姿勢でもあります。就職してからも考えて仕事を行う基礎になっています。岡林先生には本当にたくさんのことを教わりました。実験の方法を相談したり、報告書の書き方を教わったりとキリがありません。思い込みの激しさでミスをしてしまう私に「全てを疑いなさい。先生の言っていることも、自分自身さえも、間違っているかもしれないと疑ってかかりなさい」と言ってくださいました。先生に頂いた言葉の中で一番大事にしている言葉です。今も仕事のときに、疑い深くなることで恥をかかずにすんだり、事前にミスに気付いてスムーズに事を進められたりすることも多く、先生には感謝してもしきれません。

●大学で始めたJazz、上達のプロセスは…

大学時代は、Jazzサークル「Shizuoka univ. Standard Harmony Jazz Orchestra」でコントラバスを弾いていました。それまでJazzの知識は全くなく、初めて弾いた時は音すら鳴りませんでした。それが悔しくて、「絶対弾きこなしてやる！」と決意。まず同じパートのメンバーに私の弾き方の問題点を挙げてもらいました。



次に、プロの弾き方を動画サイトで見て、目標とする弾き方、音色を決めました。問題点と目標を定めて毎日エレキベースの練習を行い、腕前は格段に上がりました。卒業してからも演奏を楽しんでいます。この練習経験も、実は今の仕事で、実務の問題解決のプロセスとよく似ていると感じています。



●挑戦した経験が、宝物になる

大学では高校時代よりも自由に遊ぶことができます。一方で、自分の行動一つ一つに責任が課せられることになります。これは、就職して独り立ちする時にも必ず通る道で、貴重な経験です。自分はどうかをを考えて行動するのは、必ずしも上手くはいきませんでした。自分の中ではとても楽しい思い出です。どうか皆さん、何事も挑戦を、経験をしてください。それが宝物になる日が必ず来るのではないかと思います。



「よきモノづくり」で みんなを笑顔にしたい！

いそ かずき
磯 和樹 さん

工学研究科電子物質科学専攻（2016年修了）
花王株式会社 勤務（研究員）

1989年生まれ、宇都宮高等学校卒。
趣味は野球観戦。好きな言葉は「乾坤一擲」。

●プロセス開発に一から取り組む

この会社を選んだきっかけは、東日本大震災でのできごとです。被災者の方々が日用品を涙ながらに受け取っている姿を見て、日用品が人々の暮らしと密接に結びついており、困っている人たちに届けることで社会を元気づけることができると知りました。将来、花王での研究活動を通して世界中の人たちを笑顔にしたいです。現在は、加工・プロセス開発研究所に所属し、『めぐりズム』の生産プロセスの設計開発を行っています。つくり方で価値を創造し、花王の使命である「よきモノづくり」を実践できることにやりがいを感じています。また、大規模プロジェクトにチームで取り組んでおり、一回一回の実験が常に真剣勝負です。上司や先輩と議論しながら研究を進めることで新たな知見が得られ、自身の成長を感じています。

●ものづくりの基礎を学んだ大学時代

ものづくりの盛んな東海地方の静岡大学であればエンジニアの基礎が学べそうだと思います。工学部に入学しました。温暖で食べ物もおいしい静岡の生活に魅力も感じてい



ましたね。専攻は化学でしたが、工学系の基礎知識も実習で学びました。中でも熱心に取り組んだのは「化学工学」です。ものをどうやって作るか、物質の移動を考える学問です。分野に関わらず、物質の移動が起こる場面では考え方の基礎となるので、現在の業務でも実験計画の立案や結果の考察に役立っています。木村元彦先生の「工学基礎実習」も印象的でした。入社してみても、研究エンジニアは「頭と手を動かしてなんぼ」を痛感。この実習でエンジニアに必要な不可欠な基礎を面白おかしく学べたことが現在の礎になっていると感じます。大学院で取り組んだ「電気化学」の指導教員の昆野先生、同学科の下村先生、嵯峨根先生に大変お世話になりました。研究で疑問に感じたことを相談した時、納得いくまで個別に議論いただきました。身の回りの機械や実験機器の仕組みを知る授業も役立っています。どんな専攻でも入社後、様々な機械を相手に仕事をするということになります。大学で学んだ専攻外だからと食わず嫌いをせず学ぶことが自分の仕事の範囲を広げてくれると思います。



●格闘技で得た負けられない「ガッツ」

課外活動にも積極的に取り組みました。学生だけで「目標に向かいスタートからゴールまで一丸となって取り組む」ことは、貴重な経験で、仕事においても役立ちます。私はテコンドー部で大会に参加し、格闘技にのめりこみました。プライベートでもボクシングジムに通い、一般の方々と共に汗を流す毎日。仕事で辛い時も負けずに取り組む「ガッツ」が身につきました。



●自分を決めつけ過ぎず、挑戦しよう

良い意味で無責任に好きなことに取り組んだ学生生活でした。将来の生き方を決めていく時期ですが、自分で決めつけ過ぎず多くの夢を持っていいと思います。むしろ自分の可能性を信じ、何でも取り組んでみて下さい。何かを選択する時、迷ったときはまずやってみる。失敗しても大丈夫です。自分で決めた道では時には後悔もあるかもしれませんが、それ以上にきっと素敵な出会いが待っています。私も山あり谷あり失敗ばかりの学生時代でしたが、そこで出会った人たちはかけがえのない宝物ですね。